

P C T

国際予備審査報告

(法第12条、法施行規則第56条)

〔PCT36条及びPCT規則70〕



出願人又は代理人 の書類記号 G 2 0 0 3 1 5	今後の手続きについては、国際予備審査報告の送付通知（様式PCT/ IPEA/416）を参照すること。		
国際出願番号 PCT/J P 0 3 / 1 0 1 2 4	国際出願日 (日.月.年) 0 8 . 0 8 . 0 3	優先日 (日.月.年) 0 9 . 0 8 . 0 2	
国際特許分類 (IPC) Int. Cl ⁷ G 0 1 N 2 1 / 3 5 ; G 0 1 N 2 1 / 0 3			
出願人 (氏名又は名称) 東亜合成株式会社			

- 国際予備審査機関が作成したこの国際予備審査報告を法施行規則第57条（PCT36条）の規定に従い送付する。
- この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 6 ページからなる。
☐ この国際予備審査報告には、附属書類、つまり補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関に対してした訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面も添付されている。
(PCT規則70.16及びPCT実施細則第607号参照)
この附属書類は、全部で ページである。
- この国際予備審査報告は、次の内容を含む。
 - ☒ 国際予備審査報告の基礎
 - ☐ 優先権
 - ☒ 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
 - ☒ 発明の単一性の欠如
 - ☒ PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
 - ☐ ある種の引用文献
 - ☐ 国際出願の不備
 - ☒ 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 0 8 . 1 2 . 0 3	国際予備審査報告を作成した日 28. 09. 2004		
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/J P) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 樋口 宗彦	2 W	9 1 1 8
電話番号 0 3 - 3 5 8 1 - 1 1 0 1 内線 3 2 9 0			

I. 国際予備審査報告の基礎

1. この国際予備審査報告は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に
応答するために提出された差し替え用紙は、この報告書において「出願時」とし、本報告書には添付しない。
PCT規則70.16, 70.17)

☒ 出願時の国際出願書類

- | | | | | | |
|--------------------------|------------|---|-------|--------|----------------------|
| <input type="checkbox"/> | 明細書 | 第 | _____ | ページ、 | 出願時に提出されたもの |
| | 明細書 | 第 | _____ | ページ、 | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| | 明細書 | 第 | _____ | ページ、 | _____ 付の書簡と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> | 請求の範囲 | 第 | _____ | 項、 | 出願時に提出されたもの |
| | 請求の範囲 | 第 | _____ | 項、 | PCT19条の規定に基づき補正されたもの |
| | 請求の範囲 | 第 | _____ | 項、 | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| | 請求の範囲 | 第 | _____ | 項、 | _____ 付の書簡と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> | 図面 | 第 | _____ | ページ/図、 | 出願時に提出されたもの |
| | 図面 | 第 | _____ | ページ/図、 | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| | 図面 | 第 | _____ | ページ/図、 | _____ 付の書簡と共に提出されたもの |
| <input type="checkbox"/> | 明細書の配列表の部分 | 第 | _____ | ページ、 | 出願時に提出されたもの |
| | 明細書の配列表の部分 | 第 | _____ | ページ、 | 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの |
| | 明細書の配列表の部分 | 第 | _____ | ページ、 | _____ 付の書簡と共に提出されたもの |

2. 上記の出願書類の言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願の言語である。

上記の書類は、下記の言語である _____ 語である。

- ☐ 国際調査のために提出されたPCT規則23.1(b)にいう翻訳文の言語
☐ PCT規則48.3(b)にいう国際公開の言語
☐ 国際予備審査のために提出されたPCT規則55.2または55.3にいう翻訳文の言語

3. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき国際予備審査報告を行った。

- ☐ この国際出願に含まれる書面による配列表
☐ この国際出願と共に提出された磁気ディスクによる配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された書面による配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された磁気ディスクによる配列表
☐ 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった
☐ 書面による配列表に記載した配列と磁気ディスクによる配列表に記録した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

4. 補正により、下記の書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 図面の第 _____ ページ/図

5. ☐ この国際予備審査報告は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を越えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c) この補正を含む差し替え用紙は上記1.における判断の際に考慮しなければならず、本報告に添付する。)

Ⅲ. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成

1. 次に関して、当該請求の範囲に記載されている発明の新規性、進歩性又は産業上の利用可能性につき、次の理由により審査しない。

☐ 国際出願全体

☒ 請求の範囲 2-4

理由：

☐ この国際出願又は請求の範囲 _____ は、国際予備審査をすることを要しない次の事項を内容としている（具体的に記載すること）。

☐ 明細書、請求の範囲若しくは図面（次に示す部分）又は請求の範囲 _____ の記載が、不明確であるため、見解を示すことができない（具体的に記載すること）。

☒ 全部の請求の範囲又は請求の範囲 2-4 が、明細書による十分な裏付けを欠くため、見解を示すことができない。

☐ 請求の範囲 _____ について、国際調査報告が作成されていない。

2. ヌクレオチド又はアミノ酸の配列表が実施細則の附属書C（塩基配列又はアミノ酸配列を含む明細書等の作成のためのガイドライン）に定める基準を満たしていないので、有効な国際予備審査をすることができない。

☐ 書面による配列表が提出されていない又は所定の基準を満たしていない。

☐ 磁気ディスクによる配列表が提出されていない又は所定の基準を満たしていない。

IV. 発明の単一性の欠如

1. 請求の範囲の減縮又は追加手数料の納付の求めに対して、出願人は、

- ☐ 請求の範囲を減縮した。
- ☐ 追加手数料を納付した。
- ☐ 追加手数料の納付と共に異議を申立てた。
- ☐ 請求の範囲の減縮も、追加手数料の納付もしなかった。

2. ☒ 国際予備審査機関は、次の理由により発明の単一性の要件を満たしていないと判断したが、PCT規則68.1の規定に従い、請求の範囲の減縮及び追加手数料の納付を出願人に求めないこととした。

3. 国際予備審査機関は、PCT規則13.1、13.2及び13.3に規定する発明の単一性を次のように判断する。

- ☐ 満足する。
- ☒ 以下の理由により満足しない。

請求の範囲1には、ケイ素化合物中のシラノール基濃度を赤外線吸収スペクトル法で測定する際の、セル中の水分除去のためのセル内減圧・加圧手順に関する発明が記載されている。

請求の範囲2、3には、請求の範囲1に於いて限定された高真空および高圧に耐えうる汎用の赤外線吸収スペクトル測定用セルの発明が記載されている。

一方、請求の範囲4には、請求の範囲1-3とは異なる耐圧性の上限値のみ有し、耐真空度の下限値は特に定めのない汎用の赤外線吸収スペクトル測定用セルの構造の詳細に関する発明が記載されている。

請求の範囲1-3に係る発明と請求の範囲4に係る発明とは、PCT規則13.2の第2文の意味に於いて特別な技術的特徴と考えられる共通の事項を備えておらず、PCT規則13の意味における技術的な関連を見出すことはできない。

4. したがって、この国際予備審査報告書を作成するに際して、国際出願の次の部分を、国際予備審査の対象にした。

- ☐ すべての部分
- ☒ 請求の範囲 1 に関する部分

V. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 1	有
	請求の範囲	無
進歩性 (IS)	請求の範囲 1	有
	請求の範囲	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲 1	有
	請求の範囲	無

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

- 文献1: JP 2002-22648 A(三菱レーヨン株式会社), 2002.01.23, 全文, (ファミリーなし)
 文献2: JP 2001-208683 A(東亜合成株式会社), 2001.08.03, 全文, (ファミリーなし)
 文献3: JP 2003-35667 A(東亜合成株式会社), 2003.02.07, 全文, (ファミリーなし)
 文献4: WO 97/14951 A(セル・インターナショナル・リサーチ・マチャプティ・イ・ベ・ー・グ・ィ), 1997.04.24, 全文, &JP 11-513795 A
 文献5: JP 2002-71551 A(科学技術振興事業団), 2002.03.08, 全文, (ファミリーなし)
 文献6: JP 2001-108610 A(株式会社アブリクス), 2001.04.20, 全文, (ファミリーなし)
 文献7: JP 2000-210550 A(工業技術院長), 2000.08.02, 全文, (ファミリーなし)
 文献8: JP 10-176988 A(テラメックス株式会社), 1998.06.30, 全文, (ファミリーなし)
 文献9: JP 7-209158 A(理化学研究所), 1995.08.11, 全文, (ファミリーなし)
 文献10: JP 11-183366 A(日本酸素株式会社) 1999.07.09

請求の範囲1

シラフル基濃度を赤外吸光測定する際に、セルに対する減圧工程と加圧工程とを2回以上反復した後で測定を行う手順を経る点について、国際調査報告で示したいずれの文献にも記載がない。
 よって、請求の範囲1は新規性・進歩性を有する。

<請求の範囲2-4に関するコメント>

これらの請求の範囲はいずれも、耐減圧・耐加圧性について、その機能のみを数値限定を伴って限定したものであり、該機能を実現するための具体的セル構造に言及しておらず、明細書中にも裏付けとなる十分な記載がない。従って、セルという装置構造として先行技術と比較することができない。そのため、新規性・進歩性に関する十分な見解を示すことができない。

しかし、光学測定セルに耐圧性を持たせること自体は、例えば文献5-9にも記載された通り周知である。また、セル長は測定対象の濃度に応じて適宜設定されるべきパラメータであって、そのみの数値限定に格別の意味を見出すことはできない。しかも、請求の範囲3, 4で限定されている光路長(セル長)は、文献6, 9にも記載されたとおり慣用の数値範囲に過ぎない。

また、セルの材質として耐食・耐圧・耐熱性の見地からセル材料にステンレスやハステロイを用いることは文献8, 10にも記載された如く常套的な手段であり、同様の見地からセル窓としてサファイアを用いることもまた、文献4-10にも記載があるとおり常套的な選択である。耐圧性能の向上のためにはセル窓厚が厚いほどよいことも自明で、請求の範囲3, 4で限定されたセル窓厚2-4mmという数値範囲も、文献4, 6に記載された如く、耐圧セルに於ける常用の窓厚範囲に属する。

以上の如くであるから、該請求の範囲2-4は、それ自体記載が不明確でありかつ明細書に於ける裏付けも不十分であるが、少なくとも該請求の範囲2-4に記載された限定事項や機能はいずれも、常套的な従来技術の範疇に属し、当業者にとって自明かつ容易に実施しうる程度のものに過ぎない。

よって、該請求の範囲2-4に係る発明は、不明瞭かつ裏付け不十分な要素以外の部分について新規性・進歩性を有さない。

Ⅶ. 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付けについての意見を次に示す。

(1) 請求の範囲 2-4 には、耐加圧・耐減圧性を持つという機能が圧力値の数値限定を伴って記載されているが、単に機能のみで限定され、該機能を達成するための装置としての構成が不明である。セル長やセル窓厚、材質に関する限定は為されているものの、これらの限定と前記機能との因果関係は明細書を参酌しても尚不明確である。

(2) 請求の範囲 2 で限定されている、「20 Pa 以下の減圧に耐える」なる機能を有するセルが如何にして実現可能であるか、請求の範囲はもとより明細書にも具体的な裏付けとなる記載がない。

(3) 請求の範囲 4 には「3 MPa 以下の加圧」なる、上限のみを規定した数値限定があり、たとえ「加圧」なる文言から大気圧以下は「加圧」ではないため想定外であると解釈したとしても、限りなく大気圧に近い加圧状態を含み得、限定しようとする数値範囲が不明確である。